

百合便り

校長だより10月号



(沖縄イメージ)

10月10日からの修学旅行も無事終了しました。天候にも恵まれ、美しい海と笑みのあふれる生徒たちの様子がホームページにも日々掲載されました。本校では「平和教育」と位置づけ、沖縄修学旅行を実施しています。旅行前に沖縄戦について学び、講演を聞き、現地へ向かいます。先日ニュースで沖縄のガマ（自然洞窟）に落書きされたとが伝えられていました。落書きした人たちは沖縄で戦争があったことを知らなかったとのこと。私たちは歴史を学び、時代背景を知り、当時の人々の思想や気持ちを「想像」することで自分の思想や価値観へつなげています。行動は価値観を映し出します。教えていくことの大切さを感じます。

さて、百合高生はあの真っ暗なガマの中で避難生活していたこと、同じ「制服」を着た学生が全く違った生活を送っていたことから何を想像したのでしょうか？そこからどんな自分の未来を描いていくのでしょうか。修学旅行の経験が一つの積み重ねとなって、思い出とは別に、生徒たちの心に残ってくれることを願っています。

ところで、今月はもう一つ気になる記事があったので紹介します。それは大学生が仕事と家庭の両立を考えるために、共働き家庭で「生活体験」をする事業があるという記事です。自分の家族以外と「生活体験」をするそうです。確かに様々な体験は有意義です。しかし、体験した「生活」はもちろん全てではなく、現実には計り知れない「思い通りにならないこと」があふれています。「やりたい未来」のために「思い通りにならないこと」をどう乗り越えるかは先に話した「想像力」にかかっていると思います。本当に大切なのは「体験」を実生活に置き換えて「想像」する力を養うことで、そのためには日常の対話がとても重要だと思います。

修学旅行も生活体験もおなじ「体験学習」です。学校で様々な体験を通して、職員は生徒に話しかけ、想像させていきます。授業だけでなく、会話のなかで「想像」させることはどんな場面でも、誰にでもできることだと思います。どうぞご家庭でも子供たちと、彼らの日常を現実や社会、未来に置き換えるような「会話」で子供たちの「想像力」を伸ばしましょう。